



United Nations Educational、Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

### 第17回両毛地区ユネスコ懇話会

2013年2月15日(金)、足利学校およびまちなか遊学館において「第17回両毛地区ユネスコ懇話会」が行われました。この会は、両毛地区でユネスコ運動に取り組む7つのユネスコ協会の会員が年に一度集い、情報交換をし合い、親睦を図り合い、学び合おうということで開催されています。

今年の主管ユネスコ協会は、足利ユネスコ協会でした。参加団体は、足利ユネスコ協会、太田ユネスコ協会、佐野ユネスコ協会、桐生ユネスコ協会、館林ユネスコ協会、大泉ユネスコ協会、開倫ユネスコ協会の7団体です。

開会行事が、足利学校事務所奥の会議室で行われました。足利学校に関する説明がお聞きし、続いて足利学校を回りながら堀江英夫先生(足利学校の観光ボランティアガイドとしてご活躍)が、足利学校の歴史や学校内の建物についての詳しい解説をしていただきました。また、石川博右先生と一緒に論語の素読を行いました。

昼食後、各ユネスコ協会より活動内容の説明があり、今後の活動の活性化を模索していくうえでとてもよい機会となりました。

今後とも皆様からのご支援、ご協力をよろしく申し上げます。



足利ユネスコ協会 間宵勉会長


 足利ユネスコ協会 堀江英夫先生  
 (足利学校、観光ボランティアガイド)


各ユネスコ協会からの活動報告

## 下野新聞掲載！「書きそんじはがき」募集の協力記事

『海外の子に寺子屋を一書きそんじはがきを募る』というタイトルで、2013年1月8日、下野新聞に、ユネスコ世界寺子屋運動に関する記事が掲載されました。

『開倫ユネスコ協会(林明夫会長)は、「書きそんじはがき・キャンペーン」を実施し、書き間違えて投函しなかった年賀はがきや切手付きのはがきを募集している。日本ユネスコ協会連盟が、1989年から始めた「ユネスコ世界寺子屋運動」の一環。紛争や困苦によって十分な教育が受けられない人たちのために、同連盟が識字や職業訓練の場として各国に寺子屋を設置している。』

今回開倫ユネスコ協会に集まったはがきは、662枚でした。集まった書きそんじはがきは、郵便局で切手(29790円分)に換えられたのち、日本ユネスコ協会連盟に送られます。ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 日本ユネスコ協会連盟 評議員会

2013年1月19日、日本ユネスコ協会連盟主催の評議員会が開催されました。

松田昌士会長から、「日本大相撲力士協会のご協力で作られた山田町相撲場の土俵開きに参列し、生々しい津波の跡を見、何もない中で東北人らしくたくましく立ちあがっている姿を見た。皆様のご協力で子どもたちの就学援助に約50億円のご寄付をいただいた。しかし、たった2000人しか救えない。困っている子供がたくさんいる。少しでも東北のことを考え、忘れないようにして欲しい。これからも、各ユネスコ協会の皆様と共に活動を続けて行きたい。」とのご挨拶がありました。

続いて、新設構成団体加盟式が行われました。新たに、新宮ユネスコ協会、松坂ユネスコ協会、鎌ヶ谷ユネスコ協会(当日不在)、環境維新隊東京ユネスコクラブが加盟証書を受け取りました。

次に、世界寺子屋運動に関する報告がありました。日本ユネスコ協会連盟の招きで来日した、ハシミ所長(日ユ協連アフガニスタン・カブール事務所)、ヤマ・フェロジ氏、シャフィカ・アルダリ氏の3氏から、アフガニスタンの寺子屋活動の報告がありました。

終わりに、「現在、世界的には平和でなくなってきました。今なぜこのような提言をしているかを、若い人たちに考えて欲しいと思います。今後、40年後には人口が7,600万人になると予想されています。18年後には、大学の5分の4がいらなくなると言われています。大学の役割が大きく変わる時代が来るでしょう。平和のためにできる活動を、みんなに教えていかなければなりません。パレスチナがUNESCOに加入した件を契機に、アメリカはUNESCOへの分担金支払いを停止しました。オバマ大統領宛に本件について書簡を送りたいと思います。賛同頂ける方々から署名を頂き、送りましょう。」とのお話がありました。

今後とも、皆様からのご協力よろしくお願い申し上げます。



日本ユネスコ協会連盟 松田昌士会長



日本ユネスコ協会連盟 評議員会の様子